

東京滝川会だより 7

VOL.120

会員紹介

たゆ ともやす

～田湯 智康さん～

会員の皆様こんにちは！現在、副会長職を拝命しております田湯 智康と申します。

皆様との接点を有意義に持つことができるなら嬉しいと存じます。簡単に自己紹介をいたします。

○出身：滝川市の隣町、雨竜町です。

○経歴：滝川商業高等学校卒業後（現滝川西高等学校）、太陽銀行に入行（現三井住友銀行）、同時期に慶應義塾大学通信教育課で経済学を学び、銀行員生活で32年在籍、その後50歳になると業務出向扱いで都内精神科病院（326床）の事務長（医療経営士取得）として勤務18年を経験させていただきました。

○家族構成：妻、長男、長女（それぞれ家庭を持ち、孫3人です）

○座右の銘：「試練」どのような環境に置かれても自分に与えられた事項、必ず最後は苦しいことも乗り越えられる人に与えられる試練だと信じて行動してきました。

○趣味：アルゼンチンタンゴ。月2～3回程プロの先生によるプライベートレッスン教室に通い8年経過中、認知症予防効果もあるため今後も可能な限り踊る予定です。

○現在熱中していること：今年の1月に東海道五十三次を完歩、次に東海道五十七次も制覇しました。日本橋からスタートし京都三条大橋、大阪高麗橋（里程元標）終点、総距離553.7キロを三年の歳月をかけて歩きました。往路はすべて歩き、復路は電車、バス等を使い戻る。そして前回の折り返し地点まで行き、そこから歩きスタートとなります。ショートカットはせずに、必ず旧街道を歩くことに意味があります。徳川幕府の時代、参勤交代制で藩主たちが江戸を二年交代で東海道、中山道を利用して歩いた時代に興味があり、現代人が本当に歩くことができるのか実証経験、当時のそれぞれの宿場町を観光しながら、草鞋で歩く江戸時代の人、現代人のスニーカーの履物での歩行の違いも考慮しながらいかに大変なことかを経験しました。それぞれの宿場で地産地消の精神でご褒美と称しながら、健康第一をモットーにこれからも五街道を歩きたいと思います。

未知の世界にチャレンジすることで、自分の存在価値を高め道中の観光協会にご協力を仰ぎながら達成した感慨無量です。この経験等を活用しながら、東京滝川会の活躍と、滝川市の益々のご発展に尽力いたしたいと思います。



今年度入会された方を事務局よりご紹介いたします！

やすだ たまき

～安田 珠幾さん（気象庁情報基盤部長）～

滝川市出身。滝川高等学校を卒業後、東北大、同大学院にて海洋物理学を専攻し、北太平洋で10年単位で起こる海水温や海流の変動について研究。「海洋の研究を続けたい」と考え、30歳で気象庁に入られ、気象研究所で16年間、南米ペルー沖で海面水温が上がるエルニーニョ現象の予測精度向上などに携わられました。

「気象の説明は難しくなりがちだが、国民に分かりやすく発信することが大事」と、平成27年4月から2年間、本庁のエルニーニョ情報管理官として月1回記者レクチャー等を担当されました。局地的な豪雨をもたらす線状降水帯の発生予測の技術開発に取り組み、令和6年1月より札幌管区気象台長に着任され、現在は情報基盤部長としてご活躍されています。縁豊かな北海道に育ったことが自然現象に关心を持った原体験となっているそうです。今後の安田さんの益々のご活躍を事務局一同お祈り申し上げます！



安田 珠幾さん

※北海道新聞より引用

あなたの近況を会報でご紹介しませんか？

上記のように、会報を通じて皆様の近況や活動情報をご紹介しませんか？

写真とコメントをお寄せいただければ、紙面の枠を活用して順次掲載いたします。

なお、紙面の都合上、内容を要約させていただく場合や、掲載の順番を調整させていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

お申し込み方法

・投稿フォーム（QRコード）またはEメールにて写真とコメント（最大200字）をお送りください。

